

普及項目	養殖
漁業種類等	養殖業
対象魚類	ノリ
対象海域	熊本有明海

ノリ養殖の生産指導及び養殖状況調査

県北広域本部水産課・吉川 真季

【背景・目的・目標（指標）】

本県の主要水産物であるノリは、令和5年度(2023年度)の生産額が185億円で全国4位（出展：農林水産統計年報）となっており、ノリ養殖業の振興は、管内のみならず本県水産産業の重要課題である。

管内のノリ養殖状況を正確に把握し、ノリ生産者及び関係機関へ迅速に情報を共有するとともに適切な指導を行うため、ノリの採苗状況調査（芽付け検鏡・巡回指導）及びノリ養殖状況調査を実施した。

【普及の内容・特徴】

1 芽付け検鏡・巡回指導（令和6年（2024年）11月2日～6日）

ノリの芽付き状況を確認するため、熊本県漁業協同組合連合会（以下「県漁連」という。）、熊本市、水産研究センターと連携し、各漁協等で芽付け検鏡を実施し、各地域の芽付き情報を収集するとともに、生産者への情報共有、指導・助言を行った。

2 ノリ養殖状況調査（令和6年(2024年)11月26日～令和7年(2025年)3月14日）

県漁連、熊本市と合同で管内のノリ養殖場を巡回し、ノリ葉体のサンプル採集と環境調査（水温、比重、プランクトン量）を行った。なお、ノリ葉体のサンプルは採集後、病害等について診断し、環境調査の結果と合わせ、調査当日中にとりまとめ、管内漁協等へ情報提供した。

【成果・活用】

芽付け検鏡・巡回指導では、漁協職員等と芽数のチェックをすることで、現場の検鏡精度の均一化・向上に貢献するとともに、その後の養殖指導に活用した。

ノリ養殖状況調査では、関係機関が協力して実施したことで、ノリの生長や病気等の情報や問題点の共有化ができ、より適切な指導ができた。また、調査結果は、「ノリ養殖速報」として管内漁協及び関係機関等へ調査当日に計26回情報提供を行った。

今年度は、ノリの種付け時期の水温低下が遅かったことから、例年より約2週間遅れの11月1日からの採苗となったことや一斉撤去が実施されないなど、例年とは異なる養殖状況であった。そのような中、養殖環境やノリの生育状況、病勢についての情報を速やかに関係者へ提供したことで、現場の状況を踏まえた養殖管理にフィードバックできた。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）

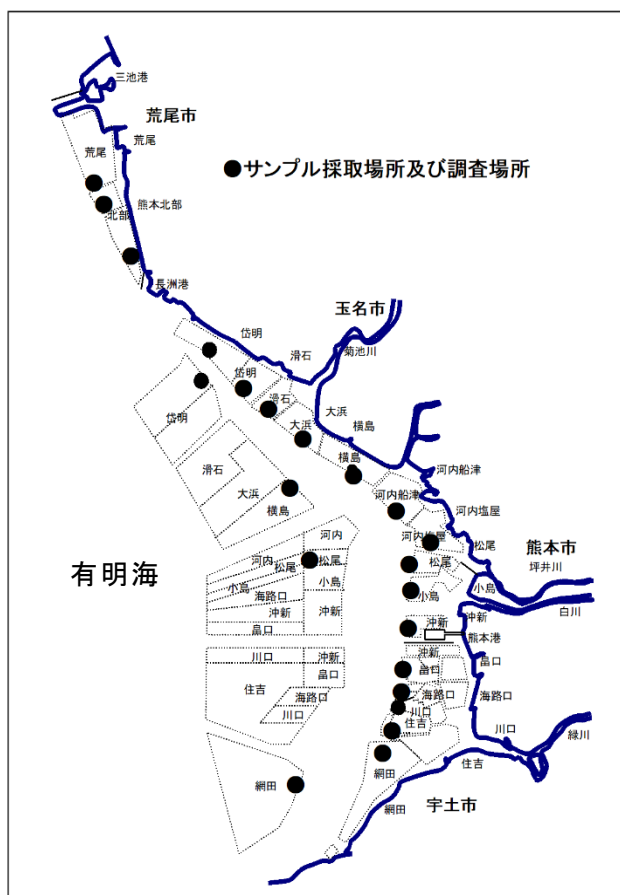


図1 ノリ養殖漁場及び調査箇所



図2 ノリサンプル採取



図3 プランクトン採集



図4 ノリ葉体サンプル